



第1章

大野市が目指す脱炭素社会

1 ビジョンの策定背景

(世界・国内の動向)

- 近年、**異常気象の頻発化**や**自然生態系の変化**、**農作物への被害**など、地球温暖化や気候変動が及ぼす影響が**世界中で顕在化**しています。
- 地球温暖化に関する国際的取り決めを話し合う世界会議 (COP26※) において、「世界的な平均気温上昇を1.5℃に抑える努力を追求する」ことが、**世界共通の目標**として合意されました (2021年11月)。
- 日本では、2050年までに温室効果ガス (主に二酸化炭素 (CO₂)) の排出を**国全体としてゼロ**にする、すなわち**2050年カーボンニュートラル**、**脱炭素社会の実現**を目指すことを宣言しました (2020年10月)。

(大野市ゼロカーボンシティ宣言)

- こうした状況を踏まえ、大野市は、2021年3月、**かけがえのない自然環境を私たちの将来の世代に引き継いでいくため、全世界が挑む気候変動という難題に対し、市民や事業者と一体となって取り組むことを決意**し、2050年までに市内におけるカーボンニュートラル (二酸化炭素実質排出量ゼロ) 達成に**挑戦**することを宣言しました。

※ COP26: 国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議の略称。気候変動問題を解決すべく、197か国・地域が締結・参加している。

COP26の様子



出典：国連気候変動枠組条約事務局

菅総理大臣 (当時) による脱炭素宣言の様子

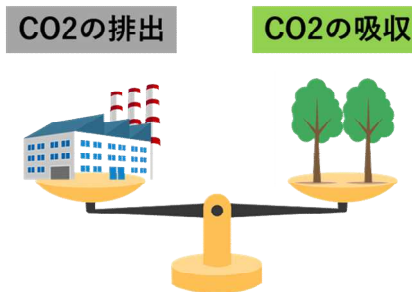


出典：首相官邸Twitter



カーボンニュートラルとは

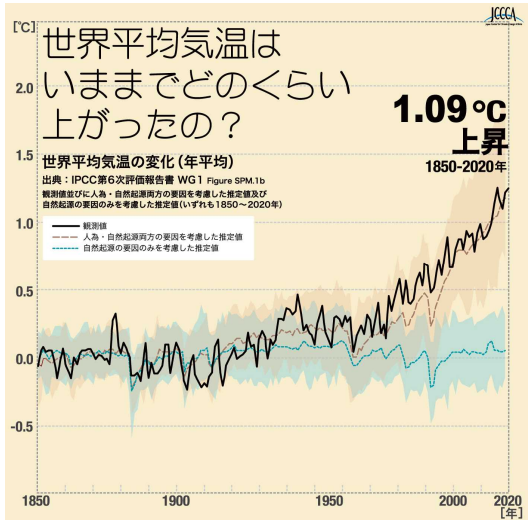
- 「カーボンニュートラル」とは、工場や家庭、自動車から出る**二酸化炭素 (CO₂) の量**から、森林による**吸収量**を差し引いた合計を**ゼロ**にすることです。
- ※ 「二酸化炭素実質排出量ゼロ」、や「ゼロカーボン」などと表現されることもあります。
- 令和4年12月末現在で823の自治体が「ゼロカーボンシティ宣言」をするなど、国内においても**脱炭素社会の実現**を目指した取り組みが広がっています。





コラム：地球温暖化のリスクについて

- 地球温暖化がもたらすのは**気象災害**だけでなく、**大気汚染**や**感染症の発生**、**経済活動**まで、様々な影響を与えることが予測されています。
- IPCC※の「1.5℃特別報告書」(2018年)によれば、「**世界全体の平均気温の上昇を、2℃を十分下回り、1.5℃の水準に抑えるためには、CO2排出量を2050年頃に実質ゼロ**にすることが必要である」とされています。
- 地球温暖化の影響により、1850年～2020年の**世界平均気温はすでに1.09℃上昇**しています。この気温の変化に伴い、**国内外で深刻な気象災害が多発**しています。
- 地球温暖化を食い止めるため、**世界各国で、2050年までに実質ゼロを目標として掲げる動きが加速**しています。



出典：全国地球温暖化防止活動センターウェブサイト

1 生態系の構造変化 (陸域、淡水域、海洋)

2 種の生息域移動 (陸域、淡水域、海洋)

3 時期の変化(生物季節学) (陸域、淡水域、海洋)

4 水不足 食料生産 (水不足、農業・作物の生産、動物・家畜の健康と生産性、漁獲量と養殖の生産量)

5 健康福祉 (感染症、暑熱・栄養不足、メンタルヘルス、強制移住)

6 都市・居住地インフラ (内水氾濫・暴風雨による損害、沿岸部における洪水、インフラ・経済への影響や損害)

気候変動による影響と主要なリスクとは？

生態系及び人間システムにおいて観測された気候変動の影響と予測されるリスク
出典) IPCC第6次評価報告書 WG2, Figure SPM.2 より JCCCA 作成

	日本	EU	英国	米国	中国
2020				2021年1月パリ協定復帰を決定	
2030	2013年度比で46%減、さらに50%の高みに向けて挑戦(温対会議・気候サミットにて総理表明)	1990年比で少なくとも55%減(NDC)	1990年比で少なくとも68%減(NDC)	2005年比で50~52%減(NDC)	2030年までにCO2排出を減少に転換(国連演説)
2040					
2050	カーボンニュートラル(法定化)	カーボンニュートラル(長期戦略)	カーボンニュートラル(法定化)	カーボンニュートラル(大統領公約)	
2060					カーボンニュートラル(国連演説)

出典：資源エネルギー庁

※ IPCC：気候変動に関する政府間パネルの略称。世界中の科学者の協力の下、気候変動に関する最新の科学的知見の評価を提供している。

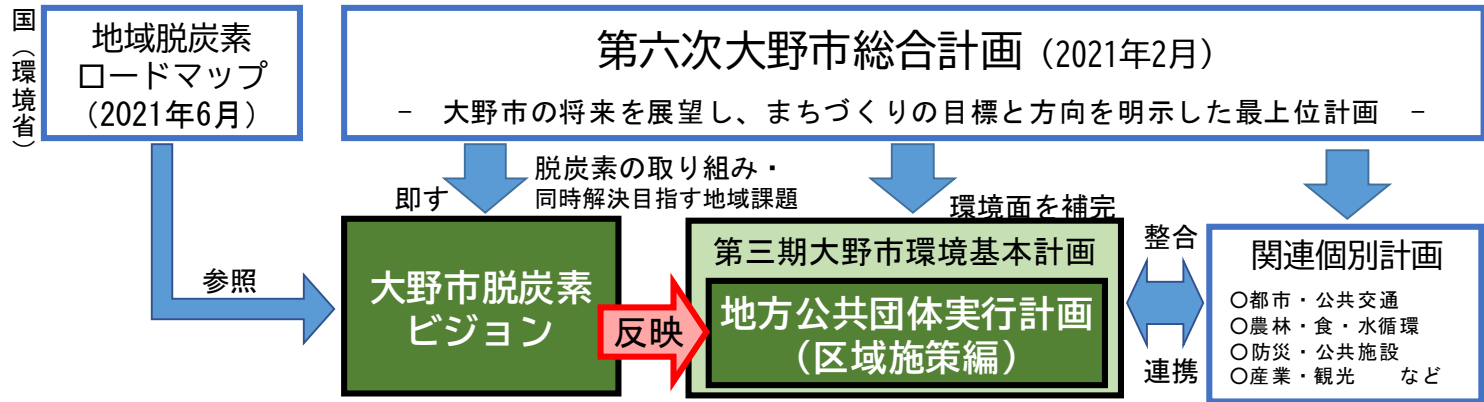
2 ビジョンの基本事項

目的

2050年までにカーボンニュートラルを達成している大野市の望ましい姿と、自然的、社会的、経済的な地域課題の解決が図られるような取組方針を示し、市民、事業者、行政の協力の下、2050年までに、脱炭素社会と、再生可能エネルギー（再エネ）の導入など脱炭素の取組みを通じて、人、モノ、カネが地域で循環する地域循環型社会の同時実現を目指します。

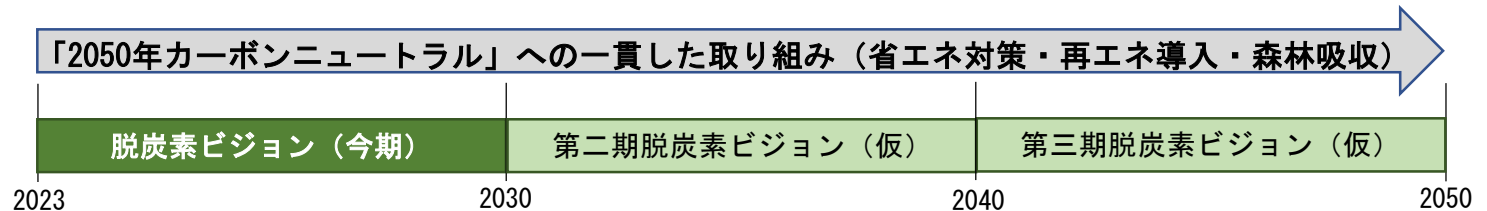
ビジョンの位置付け

本ビジョンは、2050年度を最終目標年次とする長期的な視点に立った上で、第六次大野市総合計画が示すまちづくりを脱炭素の側面から捉え、その基本戦略や取組方針等を明らかにするものです。本ビジョン策定後は、基本戦略やCO2削減目標、取組方針等を、大野市地方公共団体実行計画（区域施策編）に反映させ、他の関連する個別計画と整合を図りつつ、同計画に基づき脱炭素に資する施策を進めていきます。



計画期間

- 本ビジョンの計画期間は、2050年を見据えつつ、2023年度～2030年度の8年間とします。
- 2050年までの中間年度（2030年度、2040年度）ごとに、大野市総合計画との整合を図った上で、脱炭素シナリオ（第3章）に示す目標の達成状況や社会情勢の変化等を踏まえ、次期ビジョンを策定します。
- 次期ビジョンの策定にあたっては、大野市環境基本計画との統合を検討します。



3 ビジョンの基本戦略

- ①大野市の特徴を生かした「結の心」による協働のまちづくり、②豊富な自然や地域資源を活用したまちづくり、そして、③脱炭素の取り組みを源泉とした、経済とエネルギーの域内循環によるまちづくりを進めていきます。
- これら「人・自然・エネルギー」の3つを結び、2050年の「カーボンニュートラルの達成」と「市民のハッピーな暮らし」の実現を目指します。

「Connect 2050 人・自然・エネルギーのつながり」

～優(Y)しい心と 美(U)しい自然で 挑(I)む カーボンニュートラル～

～市民ワークショップ (2022.2) で寄せられた意見等～

Y 優しい心

- ・人と人のつながり、相互扶助、人柄や人情
- ・協力し合える関係、連帯、地区民の連携

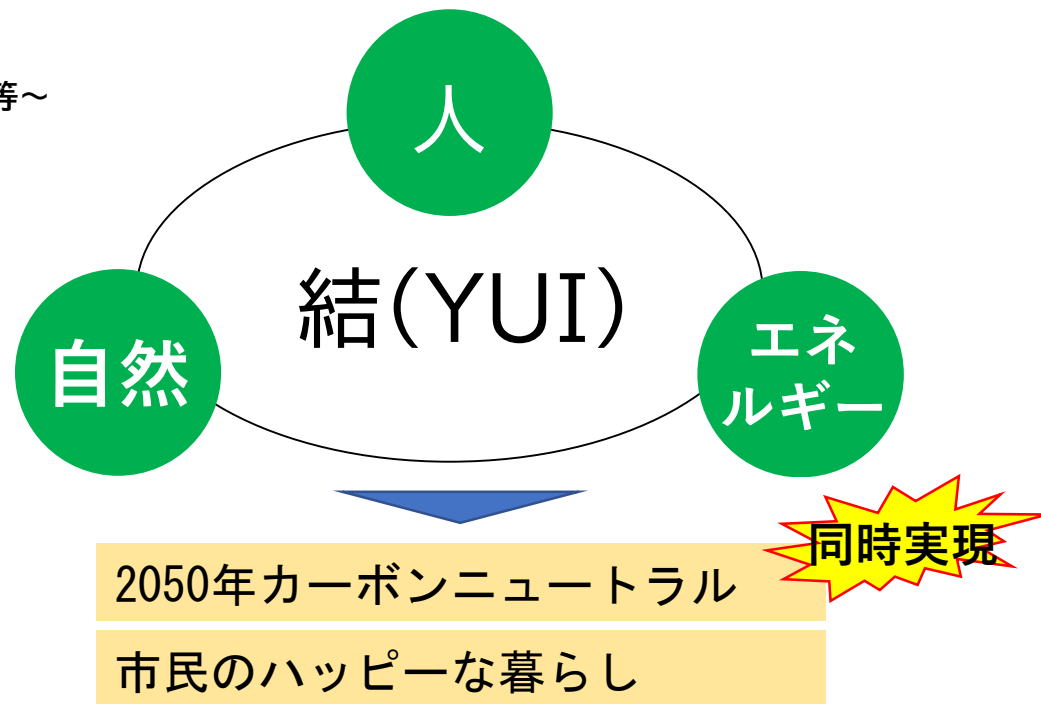
U 美しい自然

- ・大切にしたいモノ
- 豊かな自然、おいしい食べ物、美しい夜空、貴重な生態系、伝統・歴史・文化

I 挑む

- ・ゼロカーボンシティの実現
- ・再生可能エネルギーの導入
- ・やろうと思えば何でもできる

など



4 2050年の脱炭素ライフスタイル

- 2022年2月に市内5地区で市民ワークショップを開催し、大野市における「2050年の脱炭素なライフスタイル」を描きました。
- 基本戦略に示す「人・自然・エネルギー」の3つを結び、「2050年のカーボンニュートラルの達成」と「市民のハッピーな暮らし」を実現させます。

市民が思い描く 2050年の 脱炭素なライフスタイル in 大野

